

おれんじニュース

No262

2012年1月号

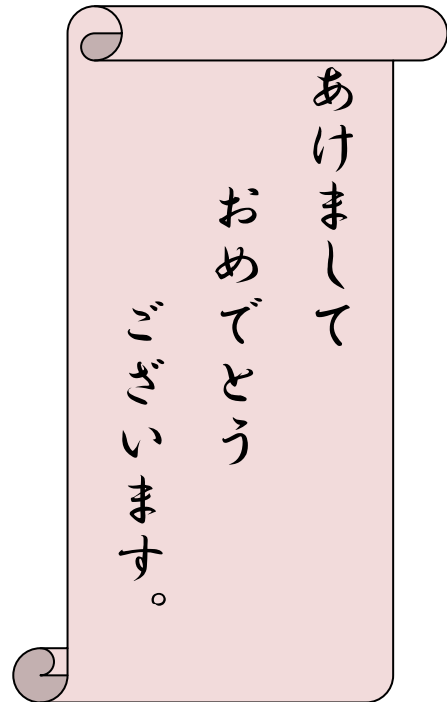
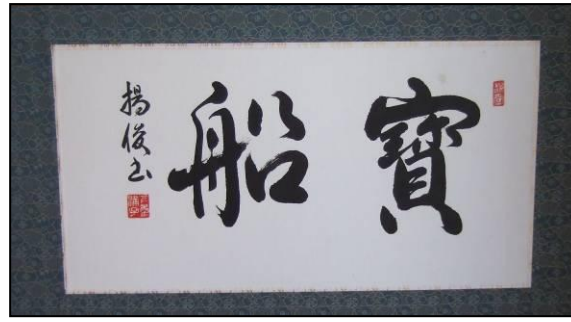


2011年11月25日 雷山千如寺の樹齢400年の大楓

★集会・委員会のお知らせ★		★1月から会合の場所と時間が変わってます。★		
	2012/1月	2012/2月	時 間	場 所
運営委員会	11日(水)	8日(水)	19:00~21:30	西諫早ふれあい会館
ひまわり集会	6日(金)	3日(金)	13:30~15:30	西諫早公民館
全体集会	25日(水)	22日(水)	19:00~21:30	西諫早ふれあい会館

..... 西諫早ふれあい会館(真崎町1086-1 ☎ 25-2100)





書 下釜さん 花 松園さん



12月6日 紅葉谷上部でみつけたヒメシャラ



2012/1 月山行

部	技術研修部	山行部	技術研修部	ひまわり山行部
月・日	9日(月)祝日	15日(日)	22日(日)	27日(金)
山名(行事)	土器山(佐賀県) かわらけやま (429.9m)	不動岩(388m) 熊本県山鹿市	矢護山(942m) 鞍岳(1118.6m) 熊本県大津町	稲佐山(332m) 金比羅山(366m)
地 図	広滝	八方ヶ岳	鞍岳	長崎西北、東北部
集合時間	西諫早駅 8:30	諫早駅前 7:00 西諫早駅 7:10	諫早駅前 6:00 西諫早駅 6:10	JR諫早駅発 8:46にて
難 易 度	要技術	楽にのぼれます	矢護山コースと 縦走コース有り	初心者向き
帰着時間	17:30	17:00	18:00	17:30
歩行時間	3.5h	2h	3.5h~7h	4h~5h
交通手段	マイカー	マイクロバス	マイクロバス	公共交通機関
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	有り	天然温泉湯香里	有り	
参加費	2500円	4000円	4000円	交通費のみ
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第	随時
集 約	佐原	田中	佐原	中村
備 考	立願、祈祷のため土器を上宮の御神体岩に納める風習から土器山(かわらけやま)という。	山鹿市北東部の岩峰郡、前不動、中不動、後不動を周回	矢護山は動物の足跡をレリーフにした道標が有り楽しめる山。	地元の山をしっかり歩きます。お諏訪さんで初詣も出来ますよ。
感想文提出	1/20	1/23	2/4	2/8

年末登山

12月30日、31日 西諫早駅出発 14:00 金泉寺小屋泊 寝袋食料持参 参加費 2000円

初日の出登山

1月1日 御館山広場の東屋 6:30集合 上の展望台にて初日の出を拝みます。

技術研修部より

1月28日(土) セルフレスキュー (JR西諫早駅9:30集合)

2月25日(土) セルフレスキュー (JR西諫早駅9:30集合)



2月山行計画

部	技術研修部	山行部	ひまわり山行部	技術研修部
月・日	9(木)~12(日)	18(土)~19(日)	24日(金)	26日(日)
山名(行事)	鳥取大山	大崩山麓、落水の滝 鑑賞登山	諫早諫江 88ヶ所めぐり	<small>たかすやま</small> 高祖山(416m) <small>こうちやま</small> 高地山(419m) 叶岳(341m) 飯盛山(382m)
地 図		祝子川		福岡西南部
集合時間		諫早駅裏 7:00 西諫早駅 7:10	諫早駅裏 9:00	諫早駅裏 7:00 西諫早駅 7:10
難 易 度	冬山訓練 要冬山装備	冬山を歩く程度	ゆっくり歩き	初心者向きと 中級健脚コース有り
帰着時間		17:00	17:00	18:30
歩行時間		5h	3.5h~7h	4h~5h
交通手段	マイクロバス	マイクロバス	公共交通機関	マイクロバス or マイカー
宿泊施設	米子ビジネス ホテル	民宿大崩の茶屋	日帰り	日帰り
温 泉	有り	天然温泉美人の湯	有り?	?
参加費	35000円	15000円	交通費のみ	4000円
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	随時	定員になり次第
集 約	佐原	田中	中村	佐原
備 考	県連の冬山訓練に同行します。	氷曝はあちこちあれど大崩の景色と重ねて眺められる。	諫早で弘法大師の足跡をたずねます。	森林浴を楽しみながら低山のミニ縦走です。福岡タワーやドームも眺められる。
感想文提出	2/20	2/28	3/7	3/10

県連登山教室のお知らせ

2012年1月22日(日) 井樋ノ尾岳 地図とコンパスの学習

11月/12月の山行報告



多良岳紅葉谷展望所散策の記録

・・・ヒメシャラの女王を求めて



- 1 1月4日(金)、(松園、下釜、山下)
- 1 1月7日(月)、(林田、川内、下釜、山下)
- 1 1月20日(日) (川原、金丸、川内、下釜、山下)
- 1 1月23日(水) (山下)
- 1 1月25日(金) (兵庫、長治さん夫妻)
- 1 1月27日(日) (田中静、下釜、金丸、山下)
- 1 2月6日(火) (兵庫、山下)

それはふとしたきっかけから登り始めた所であった。

今年のように暖冬で紅葉が遅く高い山ではなかなかぴったりの紅葉シーズンには行きあたらないが、多良岳だったらひとつ走りて登山口。

ましてや紅葉谷は大村の黒木辺りに行かなくても林道多良岳横断線を走ればすぐ登山口である。紅葉谷とはその地名の通り紅葉の絶景ポイント。車で通過するだけではなかなかわからないが下から見上げると五家原の落葉樹が濃い緑の針葉樹にまじってそれは見ごたえがある。

このあたりを上から一望できるビューポイントが紅葉谷展望所と多良岳整備のボランティア仲間

と呼ばれているらしい。この場所とそのルートは去年、山の本を出版された長治さんに聞いていた。紅葉谷からダイレクトに登るのは解りづらいので水神さんからの上巻き道を通って行った。今年も最初はそのルートで紅葉谷展望所へ。絶景かな絶景かな！

しかし今年は紅葉を見る事ともう一つ目的があった。それはヒメシャラの女王に会う事。

いつも見ているブログの管理者がこの多良岳、紅葉谷でみごとなヒメシャラに出会ったと書いてある。ブログで見る限りその辺のヒメシャラとは比較にならない。でも大きさが今一つかめない。紅葉谷の主とも書いてある。しかも紅葉谷展望所に行くには必ず会えるという。色んなルートから登ってみたり下って見たりしたけどなかなか我々はお目にかかれない。

登山道が結構荒れてるのでつつい足元を見て歩いてしまう。



大岩に登って見る冒険者達



11/4 紅葉谷展望所からの展望

行くたんびに綺麗だった紅葉も色あせてきた。人を誘うのも気の毒になり 23 日、一人でうろついてみる。ルートをはずれた所でイノシシにであう。やはり一人登山は危険である。男性の仲間を増やす。兵庫さんがブログをみて興味をしめしてくれた。一度長治さんと紅葉谷を歩いたらしい。されど収穫なし。もう今年も例のヒメシヤラには出会えないかとも思っていたら 12 月 6 日、兵庫さんからいきなり携帯がかかり今、例のヒメシヤラに出会ったよ！という興奮した声。私はお昼ご飯も食べずに食パンを一斤とペットボトルのお茶を持って紅葉谷に走った。兵庫さんは紅葉谷から登って下りてお弁当を食べたばかりだったらしいが、山下に又つき合っ登ってくれた。私が自分で探せるように距離をおいてついてきてくれた。あったあった。ヒメシヤラの女王。まさに紅葉谷の主であった。幹周りは兵庫さんの両腕で抱えても 40 センチ程足りない。この巨木を探すのにつき合っくださった皆さん本当にありがとうございました。後日このヒメシヤラを見にみんなで行ったのは言うまでもない。
(山下 記)

11 月 13 日(日)

九重・三俣山 (1747.7m)

(参加者) 中須賀、川原、鎗水、松尾(敏)、田中(静)、林田、川内、下釜、松園、山下、中村、中里、田中(紘)、岩永(の)、岩永(外)、円能寺(外)、高森(外) (17 名)

(行程) 諫早発 6:20—長者原着 9:00—大曲登山口発 9:25—すがもり越え 10:35—西峰着 11:00—本峰着 11:35(昼食)同発 12:15—南峰着 12:30—雨ヶ池分岐 13:10—北峰着 13:30—本峰着 14:10—すがもり越え 14:55—大曲登山口着 15:30

(感想) 山行の時、気になるのは天気ですが、今回は安心しての出発でした。

所が大曲登山口での空は何かどんよりとしてガスもかかっていました。

ストレッチ後、一斑 12 人、二班 5 人で 三俣山を目指しました。すがもり越で二班と別れ西峰へ、ガスがかかったり晴れたりなので 下山者も「何も見えませんでしたよ」とガッカリされてました。時々 ガスが消え山頂がのぞいたりすると 皆で喜びました。



本峰で風をよけての昼食、永くいると寒いので 次は南峰へ。眼下に大鍋、小鍋を見ながら歩きました。雨ヶ池へ下るのは道が崩れていて危険と言う事で止めて、かと言って南峰への上りはかなりきつくなり雨ヶ池分岐点から北峰に上がり、IV 峰は素通りして西峰へ戻り再び すがもり越へ下りました。大曲登山口にほぼ予定の時間に着きました。

土が湿っていたり石ころが多かったりで滑りもしましたが、登山口から山頂を見上げて良く歩いたものと感心しました。山中にはしゃくなげ、イワカガミ、こけももなどがたくさん生えていて花が咲いた時はさぞきれいだろうと思いました。紅葉はまだまだでしたが素晴らしい山容でした。山行の仕上げ温泉とビールで一日が終わりました。

楽しい山行を御世話して下さいました皆様有難うございました。（高森陽子）

11月26日（土）

セルフレスキュー

<参加者> 川原 坂口 鎗水 山下 松園 田中静 林田 下釜 林 岩永(元) (10名)
<行程> 諫早 9:40→10:10 高岩権現～15:00 ロープワーク・レスキュー訓練→諫早帰着 16:00

<感想>

今日は参加者が多い！いつもは4～5名なのに2ケタの人数だ。北海道帰りの岩永氏も初めての参加、3台の車に分乗して出発。最初はロープワークの基礎から始める。

ボーラインノット、エイトノット、クローブヒッチ、ムンターヒッチ、バタフライノットを復習した後、カラビナを使ってムンターヒッチで懸垂下降を実施した。最初は低い崖で、次は高い崖で、見た目には2倍ほどの高さであるが、高いほうは15mくらいあるだろうか、かなりの高度感がある。あまりの高度感にしり込み組みもいたが、ベテラン組は忍者のように降りている。ガルーダヒッチによる引き上げ時の固定方法をやった後、川原さんがムンターヒッチの応用試験をした。「皆の前で恥をかかないと覚えん」とのこと、基礎が出来ても応用が出来なければ意味がないのだ。

午後はザックを使った搬送方法を2パターン実施した。背負い方式と担架方式である。



外傷モデルには軽そうな人になってもらったが、ザックを3個繋いだ担架は6人で抱えると比較的楽に運べた。最後はアンザイレンで高岩権現の尾根までコンティニアスとスタックアットで登る練習をした。アンザイレンは鎗水・松園組、坂口・山下組、岩永・田中組の3組で、残りはギャラリーである。雪山や岩場であれば臨場感があるだろうが、足場の悪い山道でも手法の感覚は掴めた。尾根近くの木の葉にテントウムシのような模様のカメムシが鈴なりにとまっていた。

レッドデータブックに載っているベニツチカメムシとのこと。山下女史は何にでも

詳しい。15時に訓練は終了しお茶とお菓子で反省会、これがまた楽しい。

今回の訓練で私は大きな教訓を得た。カラビナのゲートにストッパーになるはずのロープを巻き込み、滑り止めが全く効かなくなって落下したのである。幸い地面近くの落下だったので大事には到らなかったが、これが高いほうの崖の途中であれば間違いなく怪我をしていたはずである。ワンタッチゲートのカラビナを使っていたのと、ゲートの部分にストッパーのロープがかかるような使い方をしたのが誤りだった。エイト環での懸垂下降では気づかなかった点である。セルフレスキュー訓練は細心の注意が要求される場でもあることを再認識した。(松園)

12月4日

平尾台 (大平山・貫山)

(参加者) 中須賀、田中(静)、松尾(敏)、山口、松園、林田、下釜、川原、山下、金丸(勝)、金丸(直)、中村、中里、森(寿)、中野、小山、林、高森(外)、船津(外) (19名)

(行程) 西諫早 7:10—吹上峠着 9:35—同登山口発 10:05—大平山 10:55—四方台 11:40—貫山 12:00—昼食—同発 12:40—茶ヶ床園地 13:50—自然観察センター 14:20—平尾台ビデオ鑑賞—あじさいの湯 15:50—同発 16:30—西諫早着 19:35

(感想) 秋晴れのさわやかな一日、平尾台(大平山、貫山)に登った。吹上峠より登山。カルスト台地の草原の中をひんやり感のある風に吹かれながら歩く。石灰岩(セメントの材料との事)のかたまりがあちこちにあり、まるで羊が群れているように見える。

広い草原の中にはあちこちにクレーターのようなものがあり草でおおわれているので下は見えないが鍾乳洞だそうだ。自然の作りだす景観は見事なものだ。貫山で昼食。下ろうとする時、仲間といっしょにきていた一人がギターをかかえて、武田鉄矢の「贈る言葉」を奏でて皆で歌って別れた。



空の彼方を見るとパラグライダーで悠々と空を飛んでる人がいた。下って来ると又先程のギターの人と出会い伴奏してもらって、歌って別れた。あじさいの湯で汗を流し楽しい一日でした。

最近、ここ四カ月ぐらいになるだろうか、オレンジの仲間と御館山を登って訓練している。すると、血糖値が下がっていた。山登りのすばらしさを改めて感じた。(林 孝子記)

12月2日(虚空蔵山の洞窟神社) 12月14日(岩屋山の洞窟神社)

洞窟神社散策日記

やっぱり、長崎の人のブログを見てると近くの山で色んな発見がある。今回は洞窟の神社を尋ね歩いてみた。どちらも岩屋神社。その名の通り岩の中(洞窟)に祀ってある神社である。一つは虚空蔵山の岩屋登山口から4キロ程下った所の岩屋神社(岩屋権現)である。

12月2日(松園、下釜、山下、Mさん)虚空蔵山に上木場から旧道を登り嬉野からのルートと合流する地点でおおきな洞窟を見学。ここも初めての所。洞窟の中は広く10人位は雨宿り出来そう。石を寄せて火が熾せるようにしてあって大鍋が備えてあった。斜め上に出れるようになってたが土で衣服が汚れそうで冒険はここまで。

ここは宗教的な物は無く今回の見学でのおまけのようなもの。ここからルートを虚空蔵山の頂上に取り、頂上でしばし景色を眺め岩屋口に下りる。ここから車に乗って4キロほど岩屋口公民館に向かうとその横に岩屋権現があった。鬼が一夜で築いたという階段を200段程登ると、ちょっとした広場があり、そこから又



岩屋岩根の岩かけごろも
きてみて帰る瀬戸の初音

斜めの崖をじぐざぐロープを握りしめて登ると僧円順が岩を削って作ったという神殿が見えてきた。岩屋の中は拝殿になって半分ぐらいが板張りになっていた。岩屋は二か所に分かれていて境の岩壁をまるくくりぬいてある。ここを通過して、親孝行かそうでないか、判断するらしい。ちなみに、松園さん、下釜さん、山下はスムーズに通過。(笑い)

もう一つ興味深かった事はこの案内版の文章。

ここに参拝に来たという瀬戸の初音さんは女人禁制の霊場を渡り歩くのが常だったのか長崎の岩屋神社にも似たような書きこみがあるのである。しかしこの日はこの紅葉と銀杏の紅葉真っ盛り。すばらしい景色を眺めながら初冬の日を過ごす事が出来た。



さて、12月14日(松園、金丸、林田、山下)長崎の岩屋山へ登った。ルートは虹が丘小学校の裏の岩屋神社から谷コースを登った。岩屋神社は谷コースのルートの中にある。ところが岩を削って作ったような洞窟拝殿は神社の拝殿所から左手、御稲荷神宮の横の階段を100mほど登った所。

地元の人でも余り知らない奥まった所。鬼の足跡が岩屋の天井に残してある。岩屋の広さは虚空蔵山の岩屋権現ほどではないが、仏さん柴を取換えにこられていた地元の方があまり人が行かないので荒れてますよって言われたがなんのなんのなかなかであった。

自然の中にある拝殿所は周りの紅



岩屋山岩屋石戸の苔衣
きてみて帰る瀬戸の初音

葉した小枝が趣をそえててなんとも言えない雰囲気をかもしだしていた。この日はここから又元のルートに戻り谷コースを岩屋山頂上に行き、九州自然歩道を通して舞岳に行つて同じルートで引き返した。松園さんが違うルートを歩きたがったがこの山は枝道が多くて迷いやすいので安全ルートを選んだ。

ここは市民に愛されている山らしくいつ来ても数名の登山者がいてルート

等質問に快く答えてくれる。この日はゴミを拾いながら歩いてる男の人もいた。岩屋神社の拝殿所の横にはやっぱり、瀬戸の初音さんの事がかいてあった。ここにもきたらしい。???

(山下記)

12月9日 (金)

忘年会

中村さんのがんばりで盛会のうちに忘年会が開催されました。江崎さんも参加されて、中村さんの余興もめずらしく、楽しく、他所のグループにも披露されていました。(笑い)

少し会場が狭かった感がありましたが翌日が山行(元越山)だったので時間をだらだら長くしないで「万歳三唱」でさっとおわったのが良かったと思います。皆さまお疲れ様。





オレンジ登山隊三俣を制す



霧に悩むN氏



大鍋、小鍋を通って本峰へ向かう男性軍



12/4 平尾台貫山、肉体美のK氏、M氏



12/2
岩屋権現
の紅葉

おれんじニュースNo262	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2011.12.21
財政担当	
郵便振替講座	
ホームページ	http://orangehikingclub.web.fc2.com/



ベニツチカメムシ